

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	市川 昌志
論文担当者	主査 石原 正治
	副査 藤岡 宏幸
	副査 小山 英則
学位論文名	Impact of Early Rehabilitation on Functional Recovery After Kidney Transplantation: A Retrospective Cohort Study (腎移植後の機能回復に対する早期リハビリテーションの影響：後ろ向きコホート研究)
論文審査の結果の要旨	
<p>腎移植患者におけるフレイルは重要な臨床課題であるが、腎移植後早期リハビリテーションによる機能回復の経過や、術前フレイルとの関連は十分に検討されていない。本研究は、術前フレイルを考慮したうえで、腎移植後早期リハビリテーションが身体機能および健康関連 QOL (HRQOL) に及ぼす影響を明らかにすることを目的とした。2023 年 4 月から 2025 年 6 月に生体腎移植を受けた 15 例を後ろ向きに解析し、全例に早期リハビリテーションを実施した。フレイルは改定 J-CHS 基準で評価し、ロバスト群 7 例と非ロバスト群 8 例に分類した。評価は術前および術後 1、2、4 ヶ月に行い、体組成、身体機能、HRQOL、身体活動量、座位時間を測定した。結果として、術後に体重は有意に減少した一方、6 分間歩行距離、歩行速度、TUG、膝伸展筋力、EQ-5D-5L 指数、EQ-VAS、座位時間は術後 4 ヶ月までに有意に改善した。両群とも改善を示したが、ロバスト群では改善がより早期に認められ、6 分間歩行距離でより大きな改善傾向がみられた。適切な運動強度管理により移植腎機能を損なうことなく安全に実施可能であった。腎移植後早期リハビリテーションは、フレイルの有無にかかわらず身体機能および HRQOL を改善し、退院後の在宅訓練継続がさらなる回復に寄与することが示唆された。</p> <p>本研究は、腎移植後早期リハビリテーションの有効性と安全性を、術前フレイルの観点から臨床的に検証した意義深い研究であり、学位授与に値すると判断した。</p>	